



## 「学校防災アドバイザー」の積極的な活用を

県教育委員会では、宮城県内の学校と地域が連携した学校防災の取組等を支援するため、今年度も保健体育安全課学校安全・防災班に「学校防災に関する相談窓口」を設置し、学校防災に係る専門的な知見が必要となる場合には、学校に対して「学校防災アドバイザー」を派遣し、学校防災マニュアルの見直しや防災訓練等について必要な助言を行います。

以下のチェックリストに当てはまる場合は、地域特性を踏まえた地域ぐるみの学校防災体制の構築に向けて、積極的に活用をお願いします。

【相談方法】ホームページ

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/hotai/bousaisoudan.html> から、

「様式第1号 学校防災に係る相談シート」をダウンロードし、必要事項を記載の上、メールにて相談ください。

【費用等】無料

【相談先】保健体育安全課 学校安全・防災班

[hokenaa@pref.miyagi.lg.jp](mailto:hokenaa@pref.miyagi.lg.jp) へ



学校防災マニュアルの見直しや地域と連携した学校防災体制の構築に向けて  
学校防災での困りごと、相談してませんか？

学校防災の専門家「学校防災アドバイザー」の派遣が可能となりました！！

学校の教職員だけでは難しい地域の災害特性を十分に考慮した学校防災マニュアルの見直しや、地域と連携した持続可能な学校防災体制の構築等を進めるにあたって、学校防災の専門家（学校防災アドバイザー）が具体的なアドバイスを提供します。

- 学校への研修を実施している中継校での相談したい。
- 地域と連携した防災体制の構築を希望する地域を相談したい。
- 地域と連携した防災体制の構築を希望する地域を相談したい。

その他、教職員の高い防災意識の醸成と災害対応力を高める校内研修の講師 など  
まずは、下記の相談窓口にご相談を！！

【相談方法】「様式第1号 学校防災に係る相談シート」に、必要事項を記載の上、下記お問い合わせ先へメールにて相談ください。

【相談シート掲載ホームページ】  
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/hotai/bousaisoudan.html>

【費用等】無料 ※詳細は、裏面参照ください。

【お問い合わせ先】  
保健体育安全課 学校安全・防災班 電話022-221-3669 メール [hokenaa@pref.miyagi.lg.jp](mailto:hokenaa@pref.miyagi.lg.jp)

### 「学校防災アドバイザー」活用に向けた検討チェックリスト

#### 【学校用】

- 自治会や関係機関等と防災に関する意見交換や連絡調整を行う機会（地域学校安全委員会等）が十分に確立できていない。
- 学校と地域住民と連携した訓練を実施したいが、これまで連携して行った実績がない。
- 学校が自治体の地域防災計画において、要配慮者利用施設に指定されているが、該当する災害に備えた避難確保計画の作成や、避難訓練の実施方法に関する知識がない。
- 地域の災害特性を踏まえた学校外に設定している避難場所が適切かどうかわからない。
- 学校が避難所となっており、避難所開設に備えた自治体防災担当部局や自治会等の連携体制が確立できていない。
- 防災マニュアル等の学校の防災体制のどのような点を強化していったらよいかわからない。
- 教職員の災害対応力の強化に関する研修等が充実できていない。
- その他、学校防災体制の充実に向けて、専門家から助言をもらいたいことがある。

#### 【教育委員会用】

- 所管の各学校の防災体制（防災マニュアル等）を確認する方法や指導助言する知識がない。
- 所管の各学校の防災体制の水準を上げるため、管理職や防災主任等の研修会で、講師に講演や演習を行ってほしい。
- その他、所管の各学校の防災体制の充実に向けて、専門家から助言をもらいたいことがある。

# 学校防災体制の整備・充実に向けて

みやぎ学校防災ポータルサイト『みやぼう』では、令和4年3月に作成した「学校防災マニュアル見直しのための手引」や「学校防災マニュアル作成ガイド（改訂版）」をはじめ、各学校での参考となる実践事例集や参考様式等の資料を掲載しております。各学校における防災体制の整備・充実に向けて、ぜひ活用してください。

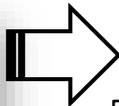
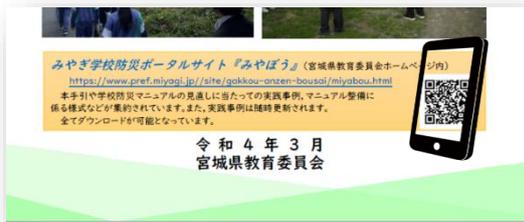
なお、実践事例集は随時更新してまいります。



みやぎ学校防災ポータルサイト『みやぼう』

<https://www.pref.miyagi.jp//site/gakkou-anzen-bousai/miyabou.html>

## 学校防災マニュアル見直しの手引



スマートフォンやタブレットで  
QRコードを読み取り

### 2-2 見直しの方法

(1) 学校が所在する地域の災害特性や、学校を取り巻く状況等の把握に関すること

① 学校周辺で想定される災害特性等が、漏れなく具体的に整理されている。

**【見直しのポイント】**

- 学校の標高、近隣の海や河川からの距離はどうか、また、学校に隣接する山や斜面、過去に地域で起こった災害、浸水しやすい低い土地がないか。
- 学校が所在する自治体のハザードマップ等で、どのような災害の被害が想定されているか。

**【見直しの方法等】**

- 自治体により、ハザードマップで発表している災害特性が異なる。学校周辺だけでなく、児童生徒等が居住する地域において、津波や大雨による浸水、土砂災害及び噴火等が及ぼす被害想定があるのかを確認する。
- 被害想定を確認する際は、被害が及ぶエリアや被害の大きさ等を確認する。  
※例：津波や大雨による浸水及び噴火による影響範囲の範囲や高さ、到達が予想される時間等（土砂災害警戒区域 など）
- 自治体のハザードマップ等の確認や職員による地域を巡回しての把握に加え、地域をよく知る住民等から、これまでの災害歴や災害時に危険である場所を聞き取るなど、学校周辺の災害特性を漏れなく把握し、マニュアルに備えておく。  
※担当者の変更なども、引き継ぎに有効な資料となる。
- 自治体防災担当部署からのハザードマップ作成の考え方や学校防災マニュアルとの整合性が取れているかなどの意見は大変参考となる。
- マニュアルは、災害が自治体の地域防災計画やハザードマップでの想定を超える場合があることを考慮して作成する必要があることから、地域をよく知る住民や、自治体防災担当部署等に加え、防災の専門家等の知見を取り入れることも大切である。
- 学校周辺のハザードマップを防災マニュアルに差し込んでおくなど、いつでも確認できる状態にしておくことが必要である。

**【作成ガイド改訂版】 P3**

**実践事例** 学校が所在する地域の災害特性や、学校を取り巻く状況等の把握に関すること

**参考資料** ① 学校の災害リスク整理表、④ 避難の判断や避難場所の設定に当たって参考になりたい情報サイト

**参考様式** ③ あなたの学校の災害リスク整理表

### 実践事例



### 参考資料



### 学校防災マニュアル見直しの手引及び作成ガイド

**学校防災マニュアル見直しの手引**

- PDF 手引本文 (PDF: 7.254KB)
- PDF 手引概要版 (PDF: 2.247KB) (PDF: 7.254KB)
- 参考資料 (資料を個別に閲覧できます。)
- 参考様式 (様式を個別にダウンロード出来ます。)

**学校防災マニュアル作成ガイド**

- PDF 改訂版 学校防災マニュアル作成ガイド (PDF: 4.645KB)
- PDF ガイド本文 (PDF: 4.645KB)
- PDF ガイド概要版 (PDF: 582KB)

### 避難計画の作成,実践的な防災訓練の実施計画に関する事例

学校防災マニュアル見直しに当たっての,具体的な実践事例を紹介します。実践事例は随時更新されます。

実践内容	実践校名
PDF 避難確保計画の内容を踏まえた避難計画の作成 (PDF: 577KB)	宮城県立滝沢支援学校
PDF 地域住民や自治体防災部局と連携して津波襲来時の学校外の避難場所を検討 (PDF: 667KB)	気仙沼市立大谷小学校
PDF 地域住民や関係機関等と連携して災害時の対応を確認した避難訓練 (PDF: 543KB)	亘理町立遠藤小学校

### 【実践事例(7)】 地域住民や自治体防災部局と連携して津波襲来時の学校外の避難場所を検討

（気仙沼市立大谷小学校）

学校の状況

- 日本大震災では、津波が校舎1階まで浸水した。
- 学校のある大谷地区の沿岸地域では、津波の被害が大きかった。
- 学校は海岸から約500mの位置で、標高約15.7mある。学校までの津波は想定されていないが、今後想定される気候変動に伴う（想定）では、最大1.6m、超津波や大雨に到達すると考えられており、大谷海岸には、5m以上の津波が想定されている。

取組方法

1. 部・小・中学校及び、地域の自主防災組織等の関係機関が参加した、大谷地区防災連絡協議会が毎年開催され、津波襲来時における学校や地域住民の避難方法が検討されている。
2. 大谷小学校は、第2避難場所として学校からさらに約300m高い避難場所への避難を検討している。その避難場所までは750mあり、15-20分程度移動にかかるため、超津波までの津波到達予想時間が10分以上ある場合の避難場所とし、津波到達予想時間が10分未満であれば、校舎屋上へ避難することとしている。
3. 隣接する大谷中学校も、同様の対応をとっており、地区住民も、同じ避難場所に避難できることを会議で確認している。
4. 小学校では、中学校や地域住民と合同で津波を想定した避難訓練を実施しており、避難対応を確認した。
5. 避難を想定しているルートが混み合った場合の代替ルートも設定し、次第順に検証予定である。

検討している代替ルート

QRコードで  
見たいページへ  
自由に移動！

参考様式

### あなたの学校の災害リスク整理表

学校名：〇〇小学校

項目	内容
1. 学校の災害リスク整理表	学校の災害リスクを整理する表
2. 避難の確保計画	避難の確保計画を作成するための表
3. 避難の判断や避難場所の設定に当たって参考になりたい情報サイト	避難の判断や避難場所の設定に当たって参考になりたい情報サイト
4. あなたの学校の災害リスク整理表	あなたの学校の災害リスクを整理する表

### 参考資料

学校防災マニュアルの見直しに関する各種資料を掲載しています。

1. PDF 学校の災害リスク整理表 (PDF: 707KB)
2. PDF 災害発生時の緊急連絡網 (PDF: 446KB)
3. PDF 緊急警報・注意報や天気予報の発表履歴について、段階的に発表される防災気象情報と対応する手順書 (PDF: 1,381KB)
4. PDF 避難の判断や避難場所の設定に当たって参考になりたい情報サイト (PDF: 611KB)
5. PDF 学校保健安全法施行規則で定める3種類の安全点検 (PDF: 420KB)
6. PDF 点検すべき項目別・安全点検実施例 (PDF: 603KB)
7. PDF 災害発生時に備える備品・備用品 (例) (PDF: 458KB)
8. PDF 「避難確保計画」と学校の危機管理マニュアルとの関係 (PDF: 310KB)
9. PDF 実践的な避難訓練計画の考え方 (例) (PDF: 441KB)
10. PDF 避難を想定する複数別の一斉避難・二次避難・三次避難 (例) (PDF: 418KB)
11. PDF 浸水・津波・大雨時に発生する浸水・土砂災害等の判断基準 (例) (PAZ・津PAZ・UPZに併せて、各学校の原子力災害対応の対応も含む) (PDF: 681KB)

各学校で見直したい項目を  
関連資料とまとめて確認！